

## 「霧島中学校の田口棒踊り伝承活動の取組」

1. 学校名	霧島市立霧島中学校
2. 学年・人数	1年生 22人
3. 日時・場所	(1) 練習の日時・場所 令和7年9月26日～令和7年10月23日 霧島中学校体育館, 校庭 (2) 発表の日時・場所 令和7年10月24日 霧島中学校体育館 令和7年11月23日 霧島 <sup>りゅうせんじ</sup> 龍泉寺にて舞を奉納, 霧島田口公民館及び老人ホーム（きりしま <sup>いっきゅうあん</sup> 一休庵・霧島 <sup>きりしまそう</sup> 荘）訪問, 霧島神宮「ほぜ祭り（豊穰・奉納祭り）」にて舞を奉納
4. 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能, 伝統行事, 伝統工芸品について	(1) 名称 霧島市指定文化財 田口棒踊り（たぐちぼうおどり） (2) 由来 島津の殿様（島津義弘公のこととか）が出兵する際, 自陣の守りが手薄にならないよう農民に道具を持たせて, 薩摩示現流を模して士気を鼓舞したことから始まったと伝えられている。 (3) 構成等 8人から20人ほどで隊列を組み, 「鎌」と「鉞」を持つ踊り手が, 4人一組となって打ち合う。元来, 戦への勝利を祈願する勇壮な踊りであったが, 「霧島松は黄金花咲く 焼野の雉は山の瀬に住む」歌い手（一人）の声が朗々と響き渡ると, 神楽鈴の音色と相まって, 荘厳な空気を醸し出す趣深い棒踊りである。
5. 文化財伝承・活用の取組において地域との連携や工夫した点等	文化祭の演目の一つとして, 1年生が地域の保存会の協力を得ながら「田口棒踊り」を学び, 練習を重ね, 文化祭で披露した。新聞・テレビ取材により地域への周知が進み, 保護者の理解と協力を得られ, 保存会が中心となって企画した地域の老人ホーム訪問や龍泉寺及び霧島神宮における舞の奉納を行った。今後も地域と連携して棒踊りを伝承していく体制づくりを検討していく。
6. 取組の様子（練習状況, 発表の場等）	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>文化祭で披露</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ほぜ祭りで奉納</p> </div> </div>
7. 感想・意見（参加児童生徒・保護者・保存会・教員等）	<p>○ 昔の人の踊りを今の人たちに受け継いでもらうために参加しました。 【生徒】</p> <p>○ 2・3年生になってもこのメンバーで続けていきたいです。【生徒】</p> <p>○ 中学生たちは文化祭の時よりよくなっていて堂々たるものでした。地域に根ざしているものを長く続けていけるようにがんばりたいです。 【保存会】</p>